令和６年度　第３回　東近江市市民協働推進委員会　会議録

◆開催日時　　令和６年９月27日（金）午後６時から午後８時まで
◆開催場所　　東近江市役所313会議室
◆出席者
市民協働推進委員　深尾　昌峰、辻　薫、小島　秋彦、小嶋　一浩
　　水谷　友彦、藤澤　加奈子、綾　康典、藤　一道
　　小島　淳司、朝比奈　遥
　　奥田　新悟、若林　理恵、中井　昇
まちづくり協働課　嶋村、西川、八木（事務局）

◆議題
（１）地域担当職員制度について
（２）「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞について

【事務局から開会のあいさつ】
・嶋村次長よりあいさつ

＜委員長＞
　今回は、大きく二つの議題を軸に進めていく。
　一つは、地域担当職員制度について。
　二つ目に、わがまち協働大賞について。エントリーは11件の応募があり、その取扱いについて話し合えればと思う。

【議題】
（１）地域担当職員制度について
＜委員長＞
　地域担当職員制度は東近江市の特徴的な制度のひとつであり、本日は制度の説明に加え、五個荘地区まちづくり協議会事務局長と五個荘地区の地域担当職員から実際に話を聞く機会としたい。
　話を聞いた後は、地域担当職員制度を今後どうブラッシュアップしていけばいいのか、現状の課題を乗り越えていくためにどうしていけばいいのか、話し合っていきたい。役所の中の制度として、また、地域社会の中での役割として両方の側面に関しては次回以降

＜事務局＞
　ガイドブックを御覧いただきたい。
　地域担当職員制度は平成28年から始まり、今年度で８年目の制度である。２年任期で希望地区

に手上げ方式で配置される。

14地区の各地域コミュニティを担当し、分野を問わず横断的、総合的に支援することを目的としている。地域課題を解決し、まちづくりを進めていくには、地域とのかかわりや地域に対する行政の支援が不可欠であり、現場に赴き積極的にコミットすることが大切である。現場主義の人材育成、攻めのまちづくりを行っていきたい。

地域担当職員とは、地域と行政の相互の情報伝達役であり、伴走支援としての役割を担っている。まちづくり協議会から地区の将来ビジョンの実現に向けて行政の情報やスキルを活かしてほしいという声が多かったため、各まちづくり協議会に地域担当職員を配置することとなった。

体制としては、各地区まちづくり協議会最低３名を公募で配置し、支所エリアに関しては、副支所長、地域振興担当の支所職員は充て職、それ以外は公募により選ばれた職員を配置している。

御用聞き、事務処理係ではなく、あくまでも伴走支援者としての職務をメインとして、地域担当職員が各地域で活動するに当たり、職員としての能力向上を目的とした研修会を年数回開催している。

実際に地域担当職員として活動している職員には、自分の趣味や特技をうまく生かしている職員も多い。地域担当職員の位置づけ、市の職員としての職場の仕事と地域担当職員としての仕事の両立ができるように、職場での協力も依頼している。

＜委員＞

地区の要望の御用聞きではないということであるが、職務との違いを判別するのは難しいのではないか。

＜事務局＞

様々な課題があって運営委員会でも議題として挙がることがあるが、その場に参加している場合、会議の参加者として意見を言う、担当部署に繋げる必要のあるものは持ち帰り繋げる役目がある。回答できるものであれば回答してよいが、必ずその場で回答・解決しなければならないというものではない。共に考え解決に繋げられるようにするものが望ましい。

＜委員＞

地域担当職員の地域のイベントへの参加は職務ではないとあるが、役員会へ出席してもらっているが、会議だけであれば「よりそい」「一緒に何かをする」ということは難しいのではないか。地域の祭りやイベントを一緒にするからこそ見えてくるものがある。役員会の参加だけがサポーター的職務と言われるのであれば、まち協の抱える問題に市の職員としてアプローチすることはかなりしんどい制度になっているのではないだろうか。実際のイベントで集まっているときに「職務として来ています」と言われると壁を感じるところがある。

＜事務局＞
　地域担当職員の仕事は業務の一環であり、５時15分以降の活動となる場合が多いため時間外業務として扱っている。地域のイベントでボランティアをする団体は『地域活動応援隊』という組織があり、そのメンバーに地域担当職員が入っていることもある。建部地区では「建部里まつり」が開催されるが、地域担当職員のまつりへの参加はボランティアであるが、地域担当職員は、地域に入る手段のひとつ、きっかけという捉え方。業務で関わって、地域に入って、本当に担当地区が気に入って、人間関係が構築でき繋がりができたその後、純粋な気持ちでお手伝いしたい、となるような流れができたら理想である。

＜委員長＞
　そういうことも含めてどのように変えていけばよいか、仕事としてではない関わり方というのはポジティブな考え方として、職員としてというのではない関わり合いが出てくるのも応援するということで良いと思う。今後実情に合った制度設計に変えていく、どちらのベクトルに変えていくとより良い制度となるのか、次回に話をしていきたい。

＜委員長＞
　自己紹介と地域担当職員として思うことについて五個荘地区まちづくり協議会の事務局長と、五個荘地区地域担当職員から話を伺いたい。

＜五個荘地区まちづくり協議会事務局長＞
　資料とトレイルシンポジウムのチラシを配付している。９月６日の滋賀報知新聞が職員の資質の高さという題目で、東近江市の経済団体が定住移住、子ども支援の施策についてという研修会で企画部の地域担当職員が人口動態と定住ということに関して、東近江市の具体的な支援や施策を丁寧に説明されたという内容の社説が掲載されていた。
　配付されている地域担当職員の活動紹介には、ふるさとづくり大賞の団体表彰での写真を掲載している。この推薦調書の作成も地域担当職員が担当してくれた。私も推薦調書を読ませていただいたが、事務局担当をして12年になる私よりも、地域担当職員の方が五個荘のまち協のことをよく知ってくださっていると感じた。滋賀オンラインセミナーとは、滋賀への定住移住をテーマにしたオンラインセミナーで、五個荘の紹介も兼ねて定住移住をオンラインセミナーで開かれたもので、これはまち協の方が企画課の職員さんに協力をさせていただいたという事例である。
　現在五個荘地区のまち協には９名の地域担当職員が所属している。配付資料のとおり、例えば資源の回収事業や、地区の自治会や中学生等1,000人以上が集まった五個荘地区の総合防災訓練などの事業にも協力をしていただいている。
　まち協の情報誌「ＧＯ！まち協」を２箇月に１回発行しており、８ページ・カラーでまちの情報を全てここへ載せている。この制作活動、取材、デザインの考案など、情報部員の方にボランティアでやっていただいており、その中に地域担当職員が２名部員の中にも入って、制作してい

ただいている。こういったことでまち協の情報誌を作る上で地域担当職員さんはなくてはならない存在だと思っている。

私は平成25年にまち協の指定管理を受けて、その時から事務局を担当している。当初はまちづくりの推進はできるだけ多くの住民が集まるイベントを企画するということが主流だったが、最近では高齢化の影響もあり、地域の祭りなどイベントを担っていく人が減少してきている。五個荘地区のイベントに関しては、最も大きなイベントは「ふれあい広場」で、約5,000人が集まるイベントを10月に開催していたが、資金的なことや人的資源もないということから、３月と４月に開催していた「桜まつり」というイベントと合体して１つのイベントにするなど、事業の縮小なども図っている。

今年は、ＧＯＧＯイエロープロジェクトという五個荘地区の新しい魅力を活かしたまちづくりについての企画を考案した。東近江市で唯一新幹線が通るという五個荘地区の特徴を活かし、中央公園の前に菜の花を植えてドクターイエローとコラボする、というものである。菜の花を植えるのは初めての試みだったので、愛の田園エコクラブにも協力していただき、現在は種をまいて芽がでてきたような状況である。

まち協の東近江トレイル実行員会は、東近江市エコツーリズム推進委員会が主催するツアーに、年に３回ほど参加している。そのツアーの際、企画で箕作山に山登りをして、降りてきたタイミングでホットサンド作りをするという企画を地域担当職員に考案してもらい、実施したところ、すぐにキャンセル待ちの状況になった。資料下に掲載しているトレイルのロゴマークも地域担当職員の方に考えて作っていただいたものである。このロゴマークには深い意味があり、トレイルコースには繖山と箕作山という大きな２つの山があるため、この山をイメージしてマウンテン（Mountain）のＭを模している。オレンジと緑の色は、紅葉と新緑をイメージして作られたロゴということで、雑誌オウティの表紙を飾ったこともある。

地域担当職員の方には大変お世話になっている。これからどのように仕事を進めていくか、これからの課題について、私が経験して思うことは、地域担当職員の人と気持ちよく仕事をしていくために人間関係を大切にし、お互いが相手を思いやりリスペクトすることでお互いに良いアイデアが生まれて本来のまちづくりの理想に近づくのではないかと思う。これからも地域担当職員の方には本業の職務を全うしていただいた上で、引き続きまち協にも支援いただければありがたく思う。

難しく考えることなく、人間関係を良くしていくことがまちづくりにつながり、地域担当職員さんにも活躍していただけることになると思う。

＜委員長＞

地域担当職員も各々がそれぞれの思いで活動されていると思う。五個荘地区地域担当職員には、地域担当職員としての思いなどを話していただきたい。

＜五個荘地区地域担当職員＞

私が地域担当職員になったのは、市役所に入って地域包括支援センターという高齢者支援の課にいた頃で、介護保険制度が大きく変わった年だった。地域で暮らしていくというということを、健康づくりには必要だという今までとは全く逆のアプローチを制度としてしなくてはならなくなった時期だったと記憶している。当時の先輩方は地域に住み、地域に知り合いもたくさんいらっしゃって、何かあったらあの人に聞いてみようということができたが、私は五個荘にずっと住んでいた割に、どこかの地域の人を知っているということもなかった。私が地域支援事業をする一端を担うことになり、地域を知らないのに地域支援事業をすることはできないと思っていた矢先に、地域担当職員制度ができることを知り、手を挙げたのがきっかけだった。

地域のことは知らなかったが、高齢者の支援のことなら情報提供はできるだろうと思い参加していた。基本的に会議の場で何か意見を絶対に何か言わなければならない、アイデアを出しなさいという訳ではなく、ただ、意見があるか聞いてくださっていた。私としては、何か言わなくてはいけないという深刻な会議ではなく、地域のことが知れるという会議だと思って参加していた。

もともと五個荘で生まれ育った職員だと、既に祭りの手伝いや、会議に出席されている方も多く、その方たちがうまく橋渡しをしてくださっている関係ができていた。マネジメント力、プロデュース力がすごく五個荘まち協の方々は上手で、イベントに参加する際も、万が一行けなくなっても穴が開かないポストに入れてもらえている。

そういう対応をしてくださるので、万が一何か用事ができた時でも大丈夫、と先ほどの女性も事務局長も言ってくださり、参加すると「よく来てくれたね」と言ってくださる。私はおだてられればどこまでも登っていくタイプなので、喜んで手伝える部分は、そういった形で関わらせてもらっている。

地域包括支援センターからまちづくり協働課に異動した後も、事務局長が集まられる会議でも事務局長に助けていただいた。企画課に来た今もなお、先ほどのオンラインの移住イベントの件でも、急なお願いにも関わらず、五個荘まち協さんには忙しい時期に全面的に協力していただいており、すごく助けていただいているなと感じている。このような関係性を作ってこられたことは、大きな財産だと思う。自分も年を重ねていったら、後輩や別の関係の人に「何かあったら言ってくれたらいい」と言えるような人間にならないとと思えるような人たちが、五個荘まち協にはたくさんいらっしゃる。そういった関係性に恵まれる機会が、非常に多く、仕事にもすごくプラスにもなっていると思う。地域の人にも知ってもらえるきっかけにもなったため、大変ありがたく感じている。

＜委員長＞

まち協側、地域担当職員側のそれぞれからの視点をお話いただいた。課題も含め、聞きたいことがあれば発言を。

＜委員＞
　事務局長の話について、地域担当職員制度によってまちづくり協議会の活動にどのような変化があったか。

＜五個荘地区まちづくり協議会事務局長＞
　あんまり意識しておらず、スムーズに地域担当職員さん入ってきておられるので前からいてくださったような気がしており、大きな変化は感じなかった。

＜委員長＞
　インパクトを残していることや、市役所職員が入ったことでこういう議論がやりやすくなったことなど、こういう話がスムーズに進んだなど、変化があれば教えていただきたい。

＜五個荘地区まちづくり協議会事務局長＞
　行政でしかわからない手続や、行事、イベントとかする時とか、警察、市役所、消防署、そういったところに行くのに、地域担当職員への相談など、どうやったらいいのかなど、今でこそわかるようになっているが、当初はその点でも助かっていた。

＜委員長＞
　行政手続を知っている、というのは確かにありがたい。

＜委員＞
　五個荘地区には９人の地域担当職員がいて、人数は多い方だと思うが、普段会っていないときのコミュニケーションはどう取っているのか。

＜五個荘地区まちづくり協議会事務局長＞
　４月の役員会の後、年間の行事予定をみて５月に総会を開き、地域の住民の方も含め、総会で事業を決定するのだが、その総会で決定した後で運営委員会（役員会）を開き、事業実施の旨を、地域担当職員さんだけでなく、まち協の推進員、自治会から推薦された推進員などに一斉に年間の案内をし、いつ参加していただけるか、全部郵送や配付をお願いして連絡を取っている。地域担当職員は運営委員会を年に何回か開いたときにそういう情報を伝えて連絡を取っており、郵送ではなく支所の副支所長が地域担当職員のリーダーとなっているので、そこから連絡が行くようになっている。

＜委員＞
　まち協が地域担当職員に求めていること、役割として持っていることがあれば聞かせていただきたい。

また、どこのまち協にも若手がいなかったり、働き盛りの世代だったりすると思うが、その部員になるまでの経緯や何かタイミングがあったのか。五個荘に住んでいたので愛着があるから地域担当職員として参加している人と、他地区に住んでいるが五個荘に所属している人では温度差があると思うが、その辺りについてはどうか。

＜五個荘地区まちづくり協議会事務局長＞

基本的には五個荘に住んでいる人がほとんど。

イラストレーターを使える人がいて、デザインを作成し、外部会社にそのデータを送って作成しており、費用は非常に安い。ただ、心苦しいのは、２箇月に１回発行するのですが、情報を集めて原稿を作ると、情報がぎりぎりになってくる場合がたくさんある。そのような場合は、夜中まで作業していることもあるため、行政の方でも何か考えてもらえるようにしてもらえるとありがたい。

また、イエロープロジェクトの際、大垣市のひまわり畑に視察に行った時に、地域担当職員の方も二人一緒に事務局として視察に行った。平日の昼だったが、地域担当職員の職務として４人で行くことができた。そういうことがもう少し自由にできる、地域担当職員の業務で仕事が抜けても周りの人の理解を得られるような仕組み作り・制度があれば、より地域担当職員の方も動きやすいと思う。

＜五個荘地区地域担当職員＞

会議の場ではなくとも個別に相談、ＬＩＮＥで相談することもあり、もう一人の事務局の女性が聞いてくれる。「こんなのがあったらいいと思う」というのでホットサンドのイベントができたので、思っていることを言いやすい状況だと思う。

＜委員＞

能登川のまち協や地域担当職員に関して、五個荘との違いがあれば教えてほしい。

＜事務局＞

五個荘地区の活動環境は正直うらやましい。

土地への縁や、支所での勤務がきっかけで担当職員になった。能登川は法人格で、堅い会議である印象。地域担当職員は10人いるが、年齢層的に若手職員は話しにくい環境である。部会に分かれて入り、話す機会が設けられることもあったが、部会によってはなかなか若手からの手は上がらない。まちづくり部会でのライティングベルや中学生アンケートの実施などの場面では若手からの発言もあった。今後更に若い世代を活かしていかなくてはならないと思う。

＜委員＞
　一方でやめていく人もいるのか。やめるきっかけを聞いたことはあるか。
　仕組み、制度づくりに活用できることはあるか。

＜五個荘地区地域担当職員＞
　せっかく会議に出ていても、頭ごなしに却下されることもあり、心が折れてしまうといったことは聞いたことがある。

＜委員＞
　地域担当職員が10人近くいる地区と、３、４人しかいない地区ではどんな違いがあるか。

＜事務局＞
　私は南部で地域担当職員をしているが、合計４人の職員がおり、実働としては２人の職員が参加している。参加が少ない人も、何かが嫌で行ってないわけではない。地域への愛着が薄い地区という印象があり、地元の結びつきが薄く感じる。

＜委員＞
　湖東には９人の地域担当職員が参加しており、毎回の情報提供には感謝している。積極的に発言してくれる職員もいるが、会議中まったく発言のない人もあり、会議の進行が悪いのかと思うこともある。そういったことに対してアドバイスなどはあるか。

＜事務局＞
　湖東地区に関しては、改善すべき点は見当たらないように思う。
　全員と仲良くする必要はなく、まち協側、地域担当職員側にお互いキーパーソンを見つけることが大切だと感じる。

＜委員＞
　地域担当職員同士が接する機会はあるのか。

＜事務局＞
　共創塾は他地区との交流がメインになっているため、公での担当職員同士の交流の場はあまりない。

＜委員＞
　どんな人が参加しやすく、モチベーションはどこにあるのか。

＜事務局＞
　男性が７割近く、年齢層は若い世代で20代から幅広い世代が活躍している
　若手が現場で活躍するというコンセプトがあるので、若手にもフォーカスしていく制度を目指している。
　なにかしら動機がある人が参加しやすい傾向はある。

＜委員＞
　同じ地区という括りでも旧町と旧八日市ではやれることが大きく違うように感じる。東近江市全体を盛り上げるための制度改革や、旧八日市にも何かしらのサポートがあるといいと思う。

＜委員＞
　アンケートに関して、いろいろな意見があるが、まち協側の意見は集約されているのか。

＜事務局＞
　定期的に意見をお聞きしている。昨年も意見を頂いたが、意見は両極端に分かれている。五個荘のようにうまくいっている地区もあれば、なかなか両者のマッチングがうまくいっていない地区もある。
　意見を見る限り地区の規模の大小に評価は関係していない。８割ほどのまち協が地域担当職員制度に肯定的な意見をいただいている。

＜委員長＞
　今回はいろんな話をしていただいた中で、ある意味理想的に機能している事例を聞くことができた一方で、様々な課題も議論の中で出てきていた。そういう課題などについては次回シェアし、枠組みや、各地区の事情や経緯などを、機能的にウィンウィンな形として機能させていく。また、市役所としても貴重な人材育成の機会として、これらを更にいい形で展開していくなど、中長期的な展望が非常に大事だと思う。東近江において特徴的な制度や仕組みでもある地域担当職員という制度に、職員全体の10パーセントの87人が関わり、参加していることはすごいことだと思うので、今日の話をもとに次回以降話し合いたい。

以下、非公表（わがまち協働大賞審査等について）――――――――――――――――――――――――――――――

　次回委員会は11月14日（木）午後７時から開催予定
　次々回　　１月14日（火）午後７時から開催予定

閉会